

「MY TREEペアレンツ・プログラム」の効果測定(2010年度～2020年度)

1. 目的

「MY TREE ペアレンツ・プログラム」の実施前後に行ったアンケート調査を比較検討することによって、「MY TREE ペアレンツ・プログラム」の効果について分析を行う。

2. 調査方法

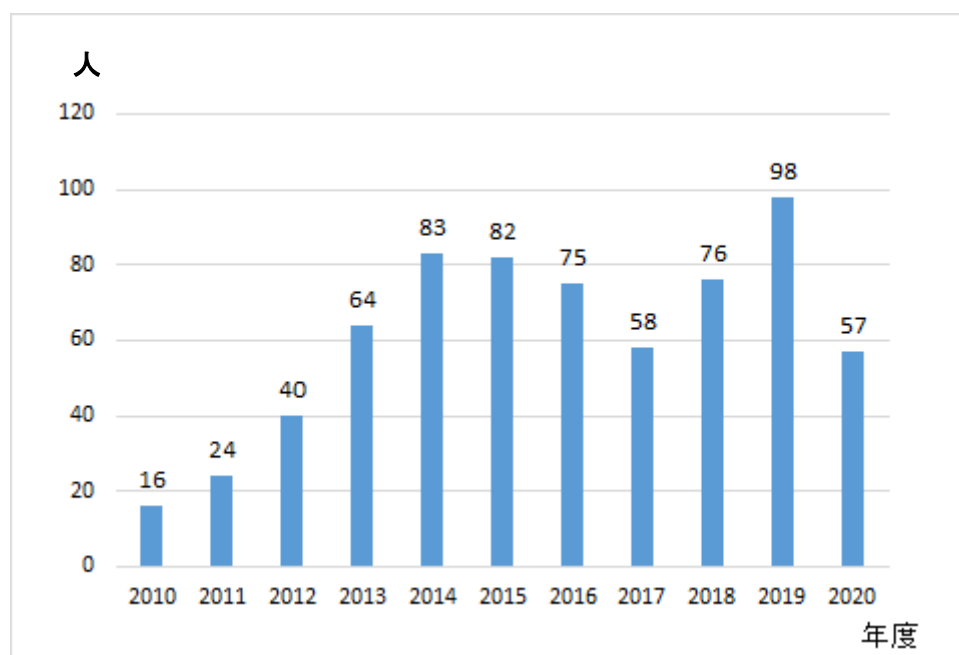
2-1 調査期間と調査対象

2010年度から2020年度に実施した「MY TREE ペアレンツ・プログラム」の参加者に、プログラムの前後にアンケート調査を実施した。調査対象は、表 2-1 と図 2-1 に示すように、これまで「MY TREE ペアレンツ・プログラム」に参加した人のうちプレ調査とポスト調査に回答をした 673 人である。なお、アンケート調査項目の欠損値の多い人は省いている。

表 2-1 調査対象

年度	人数	%
2010	16	2.4
2011	24	3.6
2012	40	5.9
2013	64	9.5
2014	83	12.3
2015	82	12.2
2016	75	11.1
2017	58	8.6
2018	76	11.3
2019	98	14.6
2020	57	8.5
合計	673	100.0

図 2-1 調査対象



参加者の平均年齢は、表 2-2 に示すように、37.04±6.05 歳（最小年齢 20 歳，最大年齢 57 歳）であった。ただし、年齢が未記入であった 1 人を省いた。

表 2-2 参加者の平均年齢

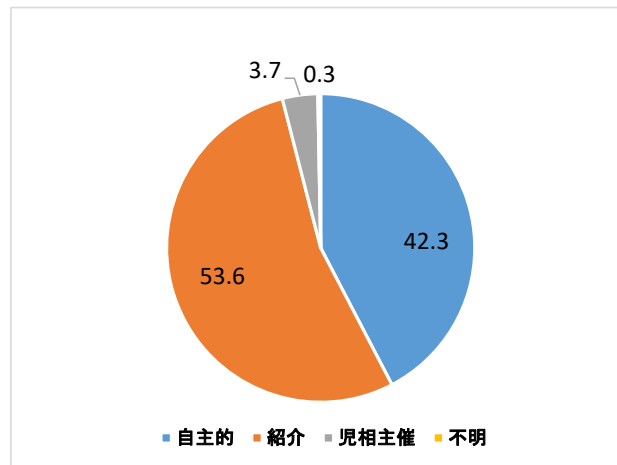
度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
672	20	57	37.04	6.047

参加経路別にみると，自主的参加は 285 人（42.3%），紹介は 361 人（53.6%），児童相談所主催/紹介は 25 人（3.7%），不明 2 人（0.3%）であった。

表 2-3 参加経路

参加経路	人数	%
自主的	285	42.3
紹介	361	53.6
児相主催	25	3.7
不明	2	0.3
合計	673	100.0

図 2-2 参加経路



2-2 調査内容

調査項目は，育児意識に関する 13 項目（順序尺度：1「はい」，2「どちらかといえばはい」，3「どちらかといえばいいえ」，4「いいえ」の 4 件法），自己評価に関する 15 項目（順序尺度：1「全くない」，2「年に 1・2 回ある」，3「月に 1・2 回ある」，4「週に 1・2 回ある」，5「ほとんど毎日」の 5 件法）と，子育て状況に関する項目 9 項目（名義尺度：「はい」，「いいえ」の 2 件法，ただしⅢ-5 の項目については「過去」「今」「いいえ」の 3 件法）である。

3. 分析方法

3-1 基礎集計

すべての項目について，基礎集計を行った。

3-2 子育て状況：クロス集計

子育て状況については，プレとポストアンケート調査の関連性を検討するために，クロス集計を行い，カイ 2 乗検定を行った。

3-3 育児意識と自己評価：Wilcoxon の符号付き順位検定によるプレとポストの比較

プレとポストの関連をみるために、育児意識と自己評価の項目についてはウィルコクソンの符号付き順位和検定を行った。なお、この検定を用いたのは、各項目についてシャピロ・ウィルク検定を行った結果、正規分布を示していなかったからである。

3-4 育児意識と自己評価に関する下位尺度得点の算出

育児意識や自己評価に関する項目については、因子分析（重みなし最小二乗法、プロマックス回転）を行い、下位尺度得点を算出した。なお、得点化するにあたっては、育児意識や自己評価について否定的であるほど得点が高くなるように得点を付値した。

なお、因子分析を行うにあたっては、「MY TREE ペアレント・プログラム」実施後に行ったポストアンケート調査のデータを使用した。

3-5 育児意識や自己評価に関する下位尺度得点のプレとポストの比較

育児意識や自己評価の因子分析結果から得られた下位尺度得点について、「MY TREE ペアレント・プログラム」実施前後を比較するためにウィルコクソンの符号付き順位和検定を行った。

4. 調査結果

4-1 子育て状況の変化

表 4-1 子育て状況のクロス集計とカイ 2 乗検定

項目	回答	プレアンケート調査		ポストアンケート調査		正確有意確率	漸近有意確率
		人数	%	人数	%		
III-1 子育てを手伝ってくれる人がいる	はい	506	79.4	534	83.8	0.000***	
	いいえ	131	20.6	103	16.2		
	合計	637	100.0	637	100.0		
III-2 子育ての大変さをわかってくれる人がいる	はい	474	75.2	529	84.0	0.000***	
	いいえ	156	24.8	101	16.0		
	合計	630	100.0	630	100.0		
III-3 子育ての相談が出来る人がいる	はい	520	82.3	553	87.5	0.000***	
	いいえ	112	17.7	79	12.5		
	合計	632	100.0	632	100.0		
III-4 子どもの健診（0歳、1歳、3歳児健診など）は受けている	はい	625	98.9	620	98.1	0.000***	
	いいえ	7	1.1	12	1.9		
	合計	632	100.0	632	100.0		
III-5 DVを受けている。過去に受けたことがある	過去	246	39.3	285	45.5	0.000***	
	今	34	5.4	28	4.5		
	いいえ	346	55.3	313	50.0		
	合計	626	100.0	626	100.0		
III-6 過去にDVを受けたことがある人のみ：（過去のDVが）今も影響している	はい	181	79.0	156	68.1	0.000***	
	いいえ	48	21.0	73	31.9		
	合計	229	100.0	229	100.0		
III-7 リラックスできる時間がある	はい	434	68.9	505	80.2	0.000***	
	いいえ	196	31.1	125	19.8		
	合計	630	100.0	630	100.0		
III-8 子育て以外の困った時に相談できる人がいる	はい	452	71.4	490	77.4	0.000***	
	いいえ	181	28.6	143	22.6		
	合計	633	100.0	633	100.0		
III-9 自分が楽しめることをしている	はい	342	54.9	419	67.3	0.000***	
	いいえ	281	45.1	204	32.7		
	合計	623	100.0	623	100.0		
III-10 楽しいことを一緒にする友人や家族がいる	はい	430	69.4	454	73.2	0.000***	
	いいえ	190	30.6	166	26.8		
	合計	620	100.0	620	100.0		

注) *** : $p < .001$

子育て状況については、表 4-1 に示すように、項目 4「子どもの健診は受けている」と項目 5「DV を受けている。過去に受けたことがある」を除く 8 項目について肯定的な回答が有意に増えていた。

なお、項目 4「子どもの健診は受けている」については、プログラムの後の方が、子どもの健診を受けていると答えた人がやや少なくなっていた。また、項目 5 の「DV を受けている。過去に受けたことがある」については、プログラムの後の方が、過去に DV を受けた方と答えた人が多くなっていた。

4-2 育児意識と自己評価のプレとポストの比較 (Wilcoxon の符号付き順位検定)

4-2-1 育児意識のプレとポストの比較 (Wilcoxon の符号付き順位検定) (表 4-2-1)

育児意識については、すべての項目について、有意に順位が低くなっていた (ただし逆転項目 7, 10, 13 は高くなっていた)。

表 4-2-1 育児意識のプレとポストの比較 (Wilcoxon の符号付き順位検定) n=673

項目	プレ・ポスト	度数	平均値	標準偏差	中央値	平均ランク	Z	漸近有意確率 (両側)
I-1 手のかかる子どもがいるので腹が立つ	プレ	668	2.02	1.009	2.00	188.33	-12.590 ^b	0.000
	ポスト	644	2.60	0.978	3.00	206.55		
I-2 子どもは私を困らせてばかりいるように感じる	プレ	668	2.27	0.983	2.00	171.93	-12.454 ^b	0.000
	ポスト	642	2.87	0.921	3.00	210.06		
I-3 うちの子は、なかなか言うことを聞かないので腹が立つ	プレ	668	2.08	0.971	2.00	171.94	-11.587 ^b	0.000
	ポスト	643	2.58	0.934	3.00	192.36		
I-4 子どもを甘やかすとつけあがると思う	プレ	665	2.52	1.050	2.00	160.21	-11.402 ^b	0.000
	ポスト	643	3.06	0.904	3.00	199.18		
I-5 悪いことをしたら、体罰も必要だ	プレ	666	2.89	1.007	3.00	126.23	-15.335 ^b	0.000
	ポスト	644	3.66	0.659	4.00	181.94		
I-6 言ってもわからない時は、体罰でわからせることが必要だ	プレ	666	3.01	0.990	3.00	134.07	-13.772 ^b	0.000
	ポスト	643	3.68	0.677	4.00	173.46		
I-7 どんな場合でも、しつけにおいて、暴力をふるうべきではない	プレ	666	1.84	0.964	2.00	149.69	-7.307 ^c	0.000
	ポスト	643	1.47	0.882	1.00	191.26		
I-8 言葉で1.2度注意してもきかない時は、ある程度の体罰もやむを得ない	プレ	661	2.82	1.031	3.00	141.77	-14.488 ^b	0.000
	ポスト	644	3.57	0.778	4.00	195.31		
I-9 子どもが危険な時、叱咤の暴力 (体罰) はやむを得ない	プレ	657	2.24	1.048	2.00	169.87	-15.502 ^b	0.000
	ポスト	643	3.16	0.961	4.00	223.55		
I-10 困ったことが起きても必ず解決できると思う	プレ	665	2.41	1.018	2.00	198.39	-10.375 ^c	0.000
	ポスト	642	1.94	0.850	2.00	165.43		
I-11 困難に直面した時は悪い事態を考えるほうだ	プレ	667	1.59	0.834	1.00	144.74	-8.872 ^b	0.000
	ポスト	643	1.91	0.879	2.00	148.31		
I-12 面倒な事には最初からあきらめる	プレ	664	2.72	0.926	3.00	143.83	-3.235 ^b	0.001
	ポスト	643	2.82	0.852	3.00	159.81		
I-13 困った時は、誰かに相談できる	プレ	664	2.11	0.987	2.00	162.44	-6.080 ^c	0.000
	ポスト	643	1.88	0.915	2.00	152.06		

注 1) a. Wilcoxon の符号付き順位検定, b. 負の順位に基づく, c. 正の順位に基づく

2) 1位: はい, 2位: どちらかといえばはい, 3位: どちらかといえばいいえ, 4位: いいえ

4-2-2 自己評価のプレとポストの比較 (Wilcoxon の符号付き順位検定) (表 4-2-2)

自己評価についてはすべての項目 (15 項目) について有意に順位が高くなっていた。

表 4-2-2 自己評価のプレとポストの比較 (Wilcoxon の符号付き順位検定) n =673

項目	プレ・ ポスト	度数	平均値	標準偏差	中央値	平均ランク	Z	漸近有意確率 (両側)
II-1 私は価値のないつまらない存在だと思ふことがある	プレ	666	3.19	1.299	3.00	193.92	-8.859 ^b	0.000
	ポスト	642	2.74	1.174	3.00	170.15		
II-2 自分の人生は辛いことが多すぎると思ふことがある	プレ	662	2.95	1.285	3.00	173.07	-7.463 ^b	0.000
	ポスト	643	2.63	1.171	2.00	154.46		
II-3 人はどうせ自分から離れていってしまうと思う	プレ	665	2.73	1.379	2.00	192.14	-6.481 ^b	0.000
	ポスト	639	2.40	1.200	2.00	164.30		
II-4 つらいときにも助けをもとめることができない	プレ	660	2.88	1.426	3.00	186.34	-7.114 ^b	0.000
	ポスト	641	2.49	1.283	2.00	164.66		
II-5 自分のほんとうの気持ちを人に語れないときがある	プレ	666	3.40	1.373	3.00	210.44	-8.942 ^b	0.000
	ポスト	639	2.85	1.249	3.00	172.25		
II-6 子どもに暴言を吐いてしまう	プレ	664	3.99	1.050	4.00	202.34	-13.848 ^b	0.000
	ポスト	634	3.29	1.154	3.00	163.47		
II-7 子どもをほめるよりも、けなしてしまう	プレ	662	3.74	1.198	4.00	207.47	-13.063 ^b	0.000
	ポスト	630	3.05	1.217	3.00	150.54		
II-8 怒りを子どもに爆発させてしまう	プレ	667	3.90	1.015	4.00	210.40	-14.117 ^b	0.000
	ポスト	633	3.21	1.087	3.00	168.17		
II-9 しつけとして、子どもをベランダや屋外に閉めだす	プレ	668	1.55	0.877	1.00	102.51	-10.234 ^b	0.000
	ポスト	636	1.18	0.477	1.00	78.66		
II-10 罰として、こどもの気に入っているものを壊す	プレ	669	1.65	0.911	1.00	113.19	-8.095 ^b	0.000
	ポスト	636	1.35	0.686	1.00	103.10		
II-11 つい子どもに怒鳴っている	プレ	667	4.24	0.983	5.00	222.55	-15.114 ^b	0.000
	ポスト	636	3.42	1.211	4.00	162.57		
II-12 腹がたつと、子どもを無視する	プレ	667	3.18	1.374	3.00	208.49	-10.736 ^b	0.000
	ポスト	634	2.55	1.255	3.00	181.61		
II-13 しつけとして、子どもに平手で叩く	プレ	667	2.66	1.214	3.00	203.62	-14.266 ^b	0.000
	ポスト	634	1.86	1.073	1.00	172.24		
II-14 子どもにげんこつで殴る	プレ	668	1.63	1.088	1.00	95.31	-6.568 ^b	0.000
	ポスト	634	1.36	0.773	1.00	86.02		
II-15 子どもを足蹴りする	プレ	668	1.82	1.016	1.00	131.42	-9.765 ^b	0.000
	ポスト	634	1.42	0.769	1.00	117.89		

注 1) a. Wilcoxon の符号付き順位検定, b. 正の順位に基づく

2) 1位: 全くない, 2位: 年に1, 2回ある, 3位: 月に1, 2回ある, 4位: 週に1, 2回ある, 5位: ほとんど毎日

4-3 因子分析

4-3-1 育児意識に関する因子分析（表 4-3-1）

「MY TREE ペアレンツ・プログラム」の実施後に行ったアンケート調査の育児意識に関する 13 項目の因子分析（重みなし最小二乗法，プロマックス回転）を行った。その結果，表 4-3-1 に示すように，3 つの因子を抽出することができた。第 1 因子は「体罰容認」，第 2 因子は「被害感情」，第 3 因子は「悲観的思考」と命名した。それぞれの因子について下位尺度得点を算出した。ただし，I-7, 10, 13 は逆転項目である。

なお，下位尺度得点を算出するにあたっては，逆転項目の除く 10 項目については，1 位「はい」に 4 点，2 位「どちらかといえばはい」に 3 点，3 位「どちらかといえばいいえ」に 2 点，4 位「いいえ」に 1 点を付加し，得点が高いほど否定的な育児意識になるように調整を行った。

表 4-3-1 育児意識に関する因子分析

	第1因子	第2因子	第3因子	共通性
	体罰容認	被害感情	悲観的思考	
I-6 言ってもわからない時は、体罰でわからせることが必要だ	0.901	0.002	-0.071	0.781
I-5 悪いことをしたら、体罰も必要だ	0.891	-0.004	-0.050	0.767
I-8 言葉で1.2度注意してもきかない時は、ある程度の体罰もやむを得ない	0.848	-0.035	0.016	0.705
I-9 子どもが危険な時、咄嗟の暴力（体罰）はやむを得ない	0.570	-0.014	0.076	0.349
I-7 どんな場合でも、しつけにおいて、暴力をふるうべきではない	-0.461	0.013	-0.022	0.214
I-4 子どもを甘やかすとつけあがると思う	0.361	0.270	0.096	0.328
I-3 うちの子は、なかなか言うことを聞かないので腹が立つ	-0.051	0.882	-0.057	0.710
I-1 手のかかる子どもがいるので腹が立つ	-0.024	0.854	-0.038	0.690
I-2 子どもは私を困らせてばかりいるように感じる	0.066	0.715	0.080	0.608
I-10 困ったことが起きても必ず解決できると思う	-0.047	0.040	-0.666	0.443
I-11 困難に直面した時は悪い事態を考えるほうだ	-0.086	0.117	0.494	0.279
I-13 困った時は、誰かに相談できる	0.017	0.071	-0.492	0.215
I-12 面倒な事には最初からあきらめる	0.069	-0.009	0.456	0.228
寄与率（%）	30.015	12.026	6.552	
累積寄与率（%）	30.015	42.041	48.593	
Cronbach の α 係数	0.820	0.852	0.604	

因子抽出法：重みなし最小二乗法 ， 回転法：Kaiser の正規化を伴うプロマックス法

4-3-2 自己評価に関する因子分析（表 4-3-2）

育児意識の因子分析と同様に、「MY TREE ペアレンツ・プログラム」の実施後に行ったアンケート調査の自己評価に関する 15 項目の因子分析（重みなし最小二乗法、プロマックス回転）を行った。その結果、表 4-3-2 に示すように、3 つの因子を抽出することができた。第 1 因子は「感情コントロール困難」、第 2 因子は「孤立感・不信感」、第 3 因子は「身体的暴力」と命名した。それぞれの因子について下位尺度得点を算出した。

なお、下位尺度得点を算出するにあたっては、1 位「全くない」に 1 点、2 位「年に 1、2 回ある」に 2 点、3 位「月に 1、2 回ある」に 3 点、4 位「週に 1、2 回ある」に 4 点、5 位「ほとんど毎日」に 5 点を付加し、得点が高くなるほど自己評価が否定的になるように調整を行った。

表 4-3-2 自己評価に関する因子分析

	第1因子	第2因子	第3因子	共通性
	感情コントロール困難	孤立感・不信感	身体的暴力	
II-8 怒りを子どもに爆発させてしまう	0.893	0.040	-0.031	0.794
II-1 1つい、子どもに怒鳴っている	0.889	-0.043	-0.028	0.736
II-6 子どもに暴言を吐いてしまう	0.880	-0.012	-0.019	0.747
II-7 子どもをほめるよりも、けなしてしまう	0.777	-0.016	0.029	0.620
II-12 腹がたつと、子どもを無視する	0.526	0.033	0.148	0.404
II-4 つらいときにも助けをもとめることができない	-0.008	0.811	-0.011	0.648
II-3 人はどうせ自分から離れていってしまうと思う	-0.042	0.789	0.026	0.611
II-2 自分の人生は辛いことが多すぎると思うことがある	-0.089	0.734	0.048	0.517
II-1 私は価値のないつまらない存在だと思うことがある	0.101	0.708	-0.010	0.559
II-5 自分のほんとうの気持ちを人に語れないときがある	0.046	0.705	-0.060	0.499
II-15 子どもを足蹴りする。	-0.062	-0.042	0.837	0.628
II-14 子どもにげんこつで殴る	-0.059	0.016	0.667	0.410
II-13 しつけとして、子どもに平手で叩く	0.196	0.026	0.600	0.546
II-10 罰として、こどもの気に入っているものを壊す	0.109	0.014	0.466	0.293
II-9 しつけとして、子どもをベランダや屋外に閉めだす	0.013	-0.005	0.409	0.173
寄与率 (%)	34.404	13.648	6.520	
累積寄与率 (%)	34.404	48.051	54.571	
Cronbach の α 係数	0.899	0.865	0.748	
因子抽出法: 重みなし最小二乗法, 回転法: Kaiser の正規化を伴うプロマックス法				

4-4 育児意識と自己評価の下位尺度得点に関するプログラム実施前後の比較

(表 4-4, 図 4-4-1, 図 4-4-2)

「MY TREE ペアレンツ・プログラム」の効果を検討するために、育児意識の3因子の下位尺度得点と自己評価の3因子の下位尺度得点について、プログラム実施前後の各因子の下位尺度得点に有意差があるかどうかを明らかにするために、ウィルコクソンの符号付き順位和検定を行った。

表 4-4, 図 4-4-1 と図 4-4-2 からわかるように、いずれもプログラム実施後の下位尺度得点は、プログラム実施前の下位尺度得点より 0.1%の危険率で有意に低くなっていた。

この結果から、「MY TREE ペアレンツ・プログラム」に参加することによって、体罰容認、被害感情、悲観的思考などの育児意識は軽減され、また、感情コントロール困難、孤立感・不信感、身体虐待などの自己評価も軽減されることが明らかになった。

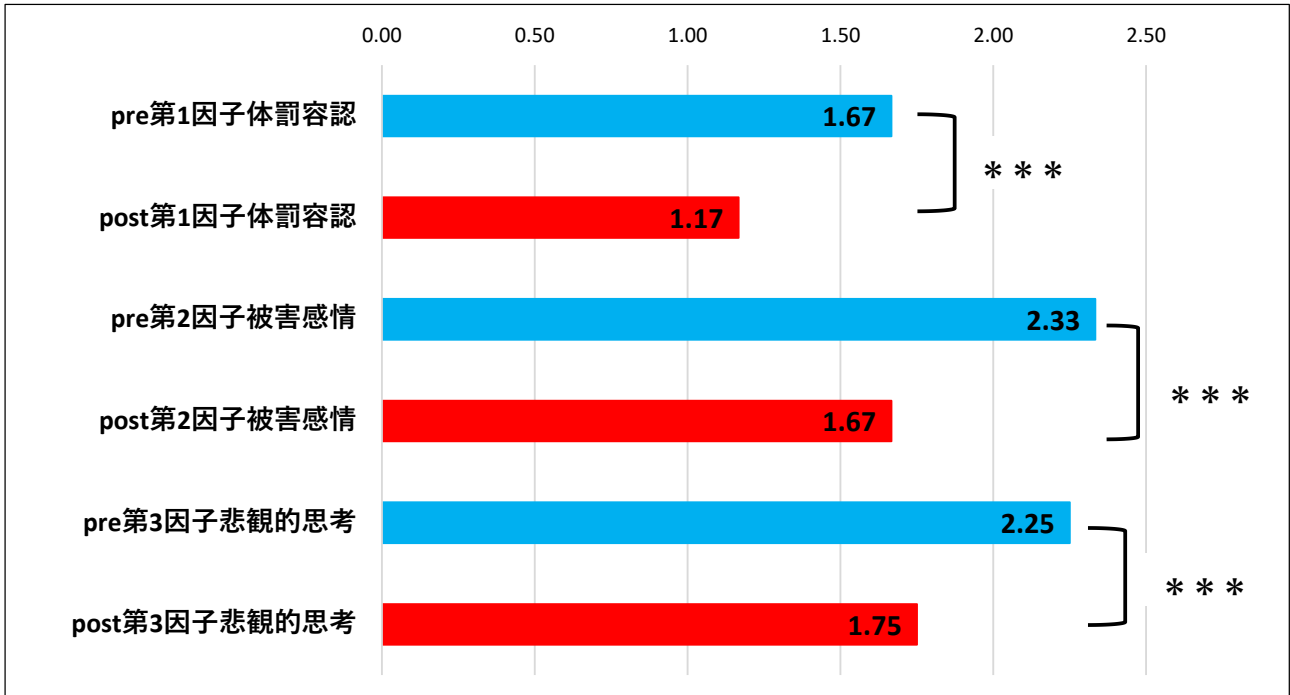
表 4-4 育児意識や自己評価に関する下位尺度得点のプレとポストの比較

		プレ・ ポスト	度数	順位平均値	中央値	平均ランク	Z	漸近有意確率 (両側)
育児意識	第1因子体罰容認	プレ	650	2.23	1.67	298.28	-18.191 ^b	0.000
		ポスト	640	1.55	1.17	158.84		
	第2因子被害感情	プレ	666	2.87	2.33	279.44	-14.702 ^b	0.000
		ポスト	642	2.32	1.67	189.54		
	第3因子悲観的思考	プレ	662	2.55	2.25	268.97	-11.656 ^b	0.000
		ポスト	640	2.27	1.75	208.74		
自己評価	第1因子感情コントロール困難	プレ	659	3.81	4.00	299.16	-16.659 ^b	0.000
		ポスト	627	3.10	3.00	155.77		
	第2因子孤立感・不信感	プレ	653	3.02	3.00	296.86	-10.808 ^b	0.000
		ポスト	634	2.61	2.40	210.49		
	第3因子身体的暴力	プレ	666	1.86	1.80	267.54	-15.545 ^b	0.000
		ポスト	634	1.44	1.20	159.71		

a. Wilcoxon の符号付き順位検定

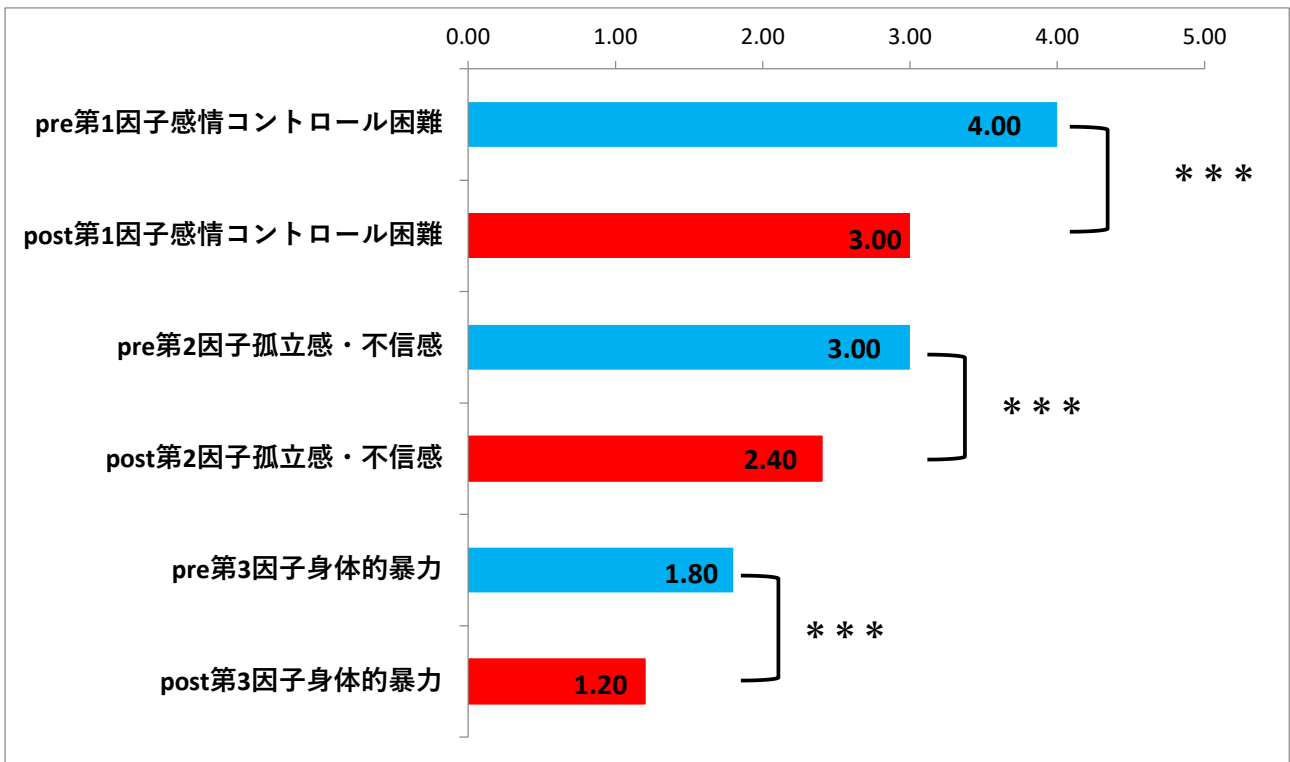
b. 正の順位に基づく

図 4-4-1 育児意識に関する下位尺度得点のプレとポストの比較 (n=673)



注) *** : $p < .001$

図 4-4-2 自己評価に関する下位尺度得点のプレとポストの比較 (n=673)



注) *** : $p < .001$

5. 結論

分析の結果、以下の4点が明らかになった。

①子育て状況については項目4「子どもの健診は受けている」と項目5「DVを受けている。過去に受けたことがある」を除く8項目について肯定的な回答が有意に増えていた。

②育児意識については、すべての項目についてポストの方が有意に順位（1位：はい、2位：どちらかといえばはい、3位：どちらかといえばいいえ、4位：いいえ）が低くなっていた。ただし逆転項目7, 10, 13は高くなっていた。このことからプログラムを受けることによって育児意識が肯定的に変化したことが明らかになった。

③自己評価については、すべての項目（15項目）についてポストの方が有意に順位（1位：全くない、2位：年に1,2回ある、3位：月に1,2回ある、4位：週に1,2回ある、5位：ほとんど毎日）が高くなっていた。このことからプログラムを受けることによって自己評価が肯定的に変化したことが明らかになった。

④育児意識と自己評価に関する項目を因子分析した結果、育児意識については「体罰容認」「被害感情」「悲観的思考」の3因子、自己評価については「感情コントロール困難」「孤立感・不信感」「身体的暴力」の3因子が抽出された。これらの3因子の下位尺度得点を算出するにあたって、否定的であるほど得点が高くなるように得点を付値した。すべての因子の下位尺度得点についてポストの方が有意に低くなっていたことから、肯定的に変化したといえる。

以上のことから、「MY TREE ペアレンツ・プログラム」の効果が明らかになった。

(2020.6.21 八重樫牧子記)